

備前市施策評価シート

(平成18年度事業)

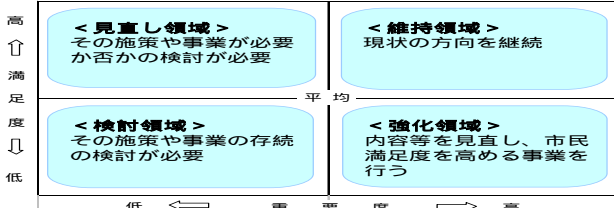
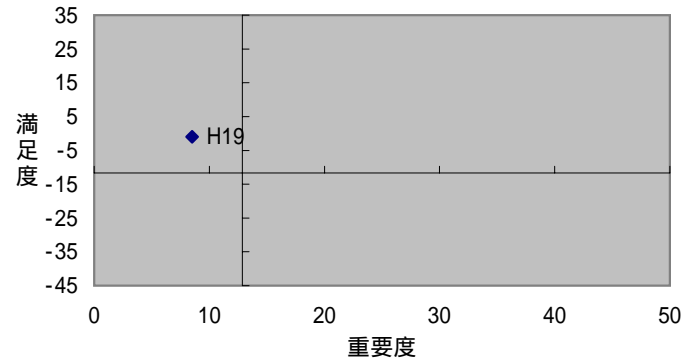
施策名 (小項目)	ごみ処理	コード	作成者	役職	環境課長
		01-01-14		氏名	有吉一博
				電話	64-1821

備前市総合計画の内容から記載する

施策の体系	大項目(基本目標)	安全で快適に暮らせるまちづくり
	中項目(基本施策)	生活しやすいまちづくり
施策の対象と目的 (誰のために、何のために)	備前市民の生活環境の保全のため、備前市内で発生する一般廃棄物を収集し、適正かつ効率的に焼却や選別等の中間処理及び最終処分を行う必要がある。	
現況と課題 (総合計画から現在の問題点を抽出)	現在、平成25年度を目処に協議中のごみ処理広域化を視野に入れつつ、現有施設の延命化を図ることが必要であると同時に、循環型社会の構築を目指し、リサイクル施設を整備し、ごみの減量化・資源化を推進することが必要である。また、備前・日生・吉永それぞれの地域でごみの収集・処理体系が異なることから、統一した処理への移行を目指す。	
施策展開 (総合計画の施策部分から、実施する施策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> 循環型社会の構築 ごみの減量化・資源化の推進 現有施設の延命化 リサイクル施設を整備 ごみ処理広域化の推進 	

市民意識調査による施策の重要度・満足度

調査年度	H19	H20	H21
重要度(%)	8.5		
満足度(%)	-1.0		



調査結果に対するコメント、市民の反応等
 調査対象でない施策の場合は、市民の反応等
 ごみ処理の有料化を導入していることから、経済的な負担が大きいとの声がある。その一方で、ごみの減量化・資源化への取組意識は高まってきている。また、ごみ収集・処理体系及び費用負担が統一されていないことから公平なサービスと負担という観点からの統一を望む声大きい。

施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	評価年度		目標値		ベンチマーク	指標の説明	
		H17	H18	H23	H28			
1 ごみの総排出量(B・H・Y)	目標	t	13,000.0	12,500.0		10,000.0	9,000.0	排出量の推移により課題が見つかる
	実績	t	13,297.0	12,787.0				
	達成率	%	102.3	102.3				
2 ごみの資源化量(B・H・Y)	目標	t	2,600.0	2,600.0		2,700.0	3,000.0	資源ごみ量
	実績	t	2,592.0	2,286.3				
	達成率	%	99.7	87.9				
3 年間の焼却量(B・H・Y)	目標	t	10,000.0	9,500.0		8,000.0	6,500.0	延命策の検討資料となる
	実績	t	10,228.0	10,237.0				
	達成率	%	102.3	107.8				
4 ごみの減量化、資源化に取り組んでいる市民の割合	目標	%	90.0	90.0				市民意識調査結果
	実績	%	79.5	84.1				
	達成率	%	88.3	93.4				

施策構成事務事業の評価

担当課長評価

施策を構成する事務事業名	事務事業評価結果 A~E (高~低)	細事業一覧表	事業分類	事業費(単位:千円)						優先順位 その他	
				H17		H18		H19			
				直接 事業費	人件費	直接 事業費	人件費	直接 事業費	人件費		
1 循環型社会推進事業	C	循環型社会推進事業	ソフト事業			0	1,655				
2 ごみ減量事業	B	資源ごみ回収推進事業	ソフト事業	10,170		10,786					
		廃棄物減量化・資源化対策等推進協議事業	ソフト事業	0	6,540	0	3,935				
		生ごみ処理容器購入費補助事業	ソフト事業	4,714		2,546					
3 不燃物前処理事業(備前)	C	不燃物前処理委託事業	ソフト事業	29,400		24,990					
		ガラスびん処理委託事業	ソフト事業	385	7,052	101	5,810				
		不燃物前処理場維持管理事業	維持管理	2,134		1,080					
4 不燃物前処理事業(日生)	C	ガラスびん処理委託事業	ソフト事業	0	0	0					
		不燃物処分事業	ソフト事業	0	0	0	755				
5 指定ごみ袋事業	B	指定ごみ袋事業	ソフト事業	32,566	2,205	7,538	1,405				
6 生活環境改善事業	B	環境衛生改善補助事業	ソフト事業	6,168	3,105	2,999	3,160				
7 塵芥収集事業(備前地区)	C	塵芥収集事業	ソフト事業	16,255	113,140	10,463	110,253				
		塵芥収集車購入事業	ハード事業	6,120		5,826					
8 塵芥収集事業(日生地区)	C	塵芥収集事業	ソフト事業	61,601	3,015	61,489	3,065				
9 塵芥収集事業(吉永地区)	C	塵芥収集事業	ソフト事業	630	2,510	630	2,275				

この施策に要した費用(人件費込、単位:千円)

	H17	H18	H19
	614,090	598,076	

以外で、目標達成に必要な新規事業及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	その説明
市民課	消費生活	マイバッグ運動の推進

施策の評価

項目	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い			
	一次評価		二次評価	
	評価	判断理由	評価	判断理由
1 目的達成度	3	適正な事業実施ができている	3	徐々にごみの減量化は進んでいるが、収集体制の統一化がなされていない。
2 事業構成の適当性	3	事業内容が複雑であるため改善すべきである。	2	同 左
3 施策の有効性	4	必要な施策である	4	ごみの減量化には不可欠な施策である。
今後の展開・協働の可能性・事業の見直し等の担当への指示	ごみ焼却維持管理事業については燃料、薬剤、電気代軽減に向けての努力をするとともに、効率的な収集を検討する必要がある。最終処分場維持管理事業については、よりいっそうの資源化を図り、施設の延命化に努める必要がある。市民に対しても資源化・減量化の啓発に努める。		ごみ処理の広域化を視野に入れた維持管理が必要になってくる。	
二次評価者コメント	生ごみの減量化をさらに進めていく。		平成20年度 予算の方向性 前年度並みの配分	

